

# 第35回 市民福祉講座

人生100年時代を迎え、社会環境も家庭環境もさまざまに変化しています。人は人との関わりの中で、一喜一憂しながら、さまざまな価値観をもって生きています。どう生きるかを問う意味で、

## 「一人ひとりが輝いて生きる」

をテーマに開催します

赤穂市総合福祉会館3階集会室  
3回シリーズ

受講料 1,000円

### 第1回

7/13 [土]  
午後1時30分～  
3時30分

## 「災害に負けないまちづくり」

～『自助』『近助』『共助』のススメ～

防災システム研究所 所長 山村 武彦 氏

1943年、東京都杉並区出身。新潟地震(1964)でのボランティア活動を契機に、同年、防災・危機管理のシンクタンク「防災システム研究所」を設立、所長に就任。以来50年以上にわたり、世界中で発生する災害(250カ所以上)の現地調査を実施。テレビ解説、日本各地での講演(2,500回以上)、執筆などを通じた防災意識の啓発活動に取り組む。また、多くの企業や自治体の防災アドバイザー(顧問)を歴任。BCP(事業継続計画)マニュアルや防災・危機管理マニュアルの策定など、災害に強い企業、社会、街づくりに携わる。実践的防災・危機管理の第一人者、防災・危機管理アドバイザー。著書に、「NHKまる得マガジン 家族を守る!現場に学ぶ防災術」(NHK出版)、「スマート防災—災害から命を守る準備と行動」(ぎょうせい)などがある。



## 「和・輪・環」

～笑顔がつなぐ人の縁～

天台宗明王山普門寺 住職 藤本 恵祐 氏

天台宗明王山普門寺住職。1938年大阪府生まれ。戦争中は兵庫県に疎開。戦後は姫路市のミッションスクール日ノ本学園に学ぶ。その後結婚して3児の母となる。39歳で専業主婦から一転、比叡山行院へ入門。修行後、普門寺住職として35年余、全国から訪れる悩みを抱えた人の相談に答えている。檀家を持たず、思春期の子どもから高齢者まで、生きている人間の悩みを解決するお寺として存在している。朝5時からの朝参りは休みなく、ともにお経をあげる人が絶えない。創建「聖徳太子」の精神を生かし「和」「輪」「環」の修行道場として縁ある人々と共に、広島原爆の分灯を「いのちの灯」として守りながら、平和への祈りを続けている。著書に「めざめの三秒!心をしなやかにする—『ありがまま』に楽に生きる—」(さくら舎)がある。



### 第2回

7/20 [土]  
午後1時30分～  
3時30分

### 第3回

7/27 [土]  
午後1時30分～  
3時30分

## 「かけがえのない人を亡くすこと」

～悲しみに向き合うグリーフケア～

関西学院大学人間福祉学部 教授 坂口 幸弘 氏

大阪大学人間科学部卒業後、同大学院人間科学研究科博士課程修了、博士(人間科学)。現在、関西学院大学人間福祉学部人間科学科教授。専門は死生学、悲嘆学。死別後の悲嘆とグリーフケアをテーマに、主に心理学的な観点から研究・教育に携わる一方で、ホスピスや葬儀社、行政などと連携してグリーフケアの実践活動も行ってきた。著書に「悲嘆学入門—死別の悲しみを学ぶ」(昭和堂)、「グリーフケア—見送る人の悲しみを癒す—」(ひだまりの会)の軌跡〜(毎日新聞社)、「死別の悲しみに向き合うグリーフケアとはなにか」(講談社現代新書)などがある。



主催／赤穂市社会福祉協議会

後援／赤穂市・赤穂市教育委員会・赤穂市自治会連合会・赤穂市民生委員児童委員協議会・関西福祉大学

参加希望者は、申込書に受講料を添えて、赤穂市社会福祉協議会(〒678-0232 赤穂市中広267 総合福祉会館内 電話42-1397)または中央公民館・各地区公民館・市社会福祉課・関西福祉大学へ7月8日(月)までに申込下さい。参加券の郵送をご希望の場合は、参加費と82円切手を貼付した返信用封筒(宛名・住所・郵便番号)を同封のうえ赤穂市社会福祉協議会へ送付してください。

キリトリ

氏名	住所	TEL	参加券番号
市民福祉講座 申込書	赤穂市	( )	